

平成 30 年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

「高校生版DMO」の活動を核とした地域観光ビジネス教育プログラムの開発

2. 研究の目的

本校が所在する千葉県長生郡一宮町は、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技会場地（サーフィン）となった。町では、この世界的イベントを地域観光活性化の起爆剤としてとらえ、町の振興につなげていこうとする機運が高まっている。また、次期学習指導要領の教科「商業」では科目「観光ビジネス」が新設となり、「商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する」とされている。

そこで、本研究では、主として教科「商業」の学びを通し、地域観光活性化のために活躍することのできる専門的職業人（以下、観光人財）を育成するために、どのような教育プログラムが有効か、という点について、一宮町を中心とした外房地域の観光活性化に向けた取組を通じて明らかにする。

具体的には、『DMO』、『観光コンテンツ開発』、『国際交流』、『観光マーケティング塾』、『観光・地域ビジネス』の5つの分野に重点を置き、生徒が、地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者と協働して、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織（＝高校生版DMO）を主体的に運営する過程をとおして、専門的職業人を育成することを目指している。

※DMO：Destination Management Organization の略

行政や地域との連携を軸にしながら外房地域の多様な関係者を巻き込み、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う組織

3. 実施期間

契約日から平成31年3月15日まで

4. 当該年度における実施計画

(1) 育成する人材像

本研究を通じて、地域観光に興味をもち、ビジネスとして捉え、将来、社会的・職業的に自立し、地域観光活性化を担い、一宮を中心とした地域のさらなる発展や未来創造に貢献できる人材の育成を目指す。

(2) 求められる資質・能力

地域観光ビジネスの基礎的知識や、英語を通じたコミュニケーション力、情報活用能力など、

ビジネスに関する専門的知識・技術を習得するとともに、地域観光の実状を理解することができる力を育成する。

具体的には、教科「商業」の各科目の学びを生かした、観光ビジネスについての実践力を伴った体系的・系統的な知識及び技術を身に付ける。また、地域観光に関する課題を発見・設定し、専門的職業人としての倫理観をもって合理的・創造的に課題を解決する力を育成する。さらに、長きにわたって地域社会を支える人財として必要な人間性、及び、より良い地域社会の実現に向けて主体的に学び、協働的に物事に取り組むことができる力の育成を目指す。

今年度は、高校生版DMOについての理解とともに、その実現のために必要となる知識や技術の習得を通し、地域の現状理解と地域観光活性化に向けた力を身に付ける学習プログラムの実施と検証を行う。また、地域との連携を軸に、次年度に実施する学習プログラムの研究を行う。

(3) 教育プログラムの開発

ア. 地域の課題発見力・分析力・表現力の育成

【観光・地域ビジネス分野の取組】

「地域観光ビジネス」～みんなの想い 「一宮町ミュージアム」

(ア) 資質・能力の概要

- ・私たちの学校がある一宮町の伝統文化や魅力について、風土愛、郷土愛を深める。
- ・一宮町が取り組もうとしている観光分野での町おこしについて、理解を深める。
- ・観光地として、国内、海外から多くの観光客が来ることを想定し、それに対応できるようコミュニケーション能力の向上を図る。
- ・一宮町の人口減、経済衰退といった課題を理解し、高校生の立場から外国人を含めた観光客誘致のビジネスモデルを考える力の向上を図る。
- ・今後実施する観光アプリの開発やイベントプランの作成に生かすための IT 技術に関する基礎的な力を身に付ける。

(イ) 実施時期及び期間

夏期休業中～9月上旬（アンケート・調査1日、事前事後学習3時間）【現代社会】

1学期3時間、2学期3時間、3学期2時間（計8時間）【ビジネス基礎】

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生 公民科「現代社会」 商業科「ビジネス基礎」 163名全員に実施

(エ) 具体的教育プログラム

【現代社会】

観光アプリ開発の学習の導入として、一宮町の伝統文化を生徒自らの目で見て、さらに上総十二社祭りの参加者にインタビューや調査をすることにより、自らの耳で聞く体験をする。

- ・学習の初めに、意識づけのためのアンケート調査を実施する。
- ・上総十二社祭りの歴史などについて学ぶ。
- ・上総十二社祭りの参加者に、参加理由や生活の中での位置づけ、参加者の思いをインタビューすることで、一宮町の伝統文化理解につなげるとともに、コミュニケーション能力を身

につける。

・事後学習として、各班からインタビュー調査の結果を報告させ、情報の共有を図る。また、それまでに利用したワークシート、記録シート、写真、メモなどからポートフォリオを各自作成させる。なお、このポートフォリオは今後の観光アプリの学習に役立てる。

・学習の振り返りとして、作成したポートフォリオを見て、取組や観光にどのように生かせるかについてのレポートをまとめる。

【ビジネス基礎】

・「社会の変化とビジネスの発展」に関する学習において、現在の一宮町のもっている特徴・課題を投げかける。

・上記を踏まえて、一宮町の課題に対する取組方法を見つけ、テーマを設定し、本やインターネットを活用し、調査研究することで理解を深める。

・グループごとに調査・研究した内容を発表させ、発表力のスキルアップを図る。

・一宮町役場に講演を依頼し、地域の特性について講演を開催する。

・「コミュニケーション、ビジネスマナー」において、コミュニケーションについてトレーニングを行う。

・手話も言語の1つであることから、来訪者への対応などを想定したロールプレイによるトレーニングや、挨拶などの簡単な手話をトレーニングする。

(オ) 学習評価の方法

・祭り参加者へのインタビューについてはパフォーマンス課題を与え、評価を行う。

・事前、当日、事後の取組状況についてはポートフォリオを評価する。

・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。

・発表に関しては資料の分かりやすさや完成度を総合的に評価する。

・役割分担ごとに貢献度を評価し、積極性や責任感などを観点別に評価する。

・公民的な事項については定期考査で評価を行う。

・「ビジネス基礎」で学んだ基礎知識については、定期考査及び小テストで評価を行う。

イ. 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成

【国際交流分野の取組】

外国人観光客の困りごとを解決し、支援できるコミュニケーション能力の育成

(ア) 資質・能力の概要

国際的イベントや観光で一宮町を訪れる外国人観光客についてその状況やニーズを理解し、英語を用いて適切な対応や支援を行う力及びさらなる集客につながるスムーズなコミュニケーションを行う能力を養う。

(イ) 実施時期及び期間

1 学期 3 時間 2 学期 3 時間 3 学期 2 時間 計 3 回 (8 時間)

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生 外国語科「コミュニケーション英語Ⅰ」163名全員に実施

(エ) 具体的教育プログラム

- ・国際交流に関する生徒自身の体験を発表し、外国人とコミュニケーションを図る際に考えられる問題について話し合う。

[方法] 体験の有無によりグループ分けを行い、国際交流の具体例を発表する。体験のないものはウェビングにより交流場面で起こりうる問題について意見を出し合い、内容ごとに分類し、系統的にとらえる。

- ・外国人観光客のために各自や商業施設が取り組むことができるものや、想定される困りごとの解決策を検討し、地域に提案する。

[方法] 問題別に少人数のグループで話し合った結果を発表する。英語でチャートにまとめたものはALTに確認してもらい生徒の共通理解とし、商業施設に提案するものについては英語によるリーフレットを作成する。

- ・想定される対話文について理解し、ロールプレイがスムーズにできるようにする。

[方法] 対話文を聞き、話されている内容を理解したのち、ペアやグループで対話練習を行う。役割を換えて繰り返しながらアレンジにも対応できるまで定着を図る。

(オ) 学習評価の方法

- ・11月に行われる英検IBA終了後、生徒全員対象のパフォーマンステストを行う。
英検IBAのレベルに相当する内容で英文を聞き、内容に基づいた質問に英語で答えたり、自分の意見を相手にわかるように伝えることができるかどうかを3段階で評価する。
- ・外部試験である英語応対能力検定を受検し判定を得たものは自己評価とする。

ウ. 地域観光マーケティング・マネジメント力の育成

【高校生版DMO分野の取組】

一宮町の観光資源をリンクする『一商版DMOプロジェクト』

(ア) 資質・能力の概要

- ・「ビジネス基礎」で学習したビジネスについての理解を深めるとともに「モノ消費からコト消費」、「インバウンド」など、近年のビジネス環境の変化について理解する。
- ・一宮町について調査・研究および講演により理解を深める。
- ・町内の観光資源を生かした地域観光ビジネスについて興味・関心をもつ。
- ・DMOの定義と役割について理解する。

(イ) 実施時期及び期間

7月 11月 12月の6時間

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生「ビジネス基礎」 163名全員に実施 7月については学年行事

(エ) 具体的教育プログラム

各地で先行する地域観光ビジネスの取組を参考にし、観光ビジネスについて興味・関心をも

たせ、今後実施する「高校生版DMO」について講話により理解を深める。

- ・学習のはじめに、生徒の意識について事前のアンケート調査を実施する。
- ・「モノ消費からコト消費」「インバウンド」など近年のビジネス環境の変化について学ぶ。
- ・一宮町について調査・研究に取り組み、一宮町役場職員より講話を聞く。
- ・地域観光ビジネスに取り組んでいる地域の活動事例について調査・研究する。
- ・DMOについて関係者より講演を受け、DMOについてまとめさせる。
- ・3年生「課題研究」ビジネス研究班およびビジネス研究部による取組発表を聞く。
- ・事後のアンケート調査を行う。

(オ) 学習評価の方法

- ・レポートによって「知識・理解」や「関心・意欲・態度」など、観点別評価を行う。

エ. IT の力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成

【観光コンテンツ分野の取組】

一商版ハッカソン 一宮町観光アプリアイデアコンテスト

(ア) 資質・能力の概要

- ・一宮町が観光資源として PR できる商品や施設、自然、体験、取組に関する基礎的・基本的な知識を習得する。
- ・プレゼンテーションソフトを活用した資料作成の方法と発表方法に関する知識・技術を習得する。
- ・地域活性化の重要性や意義を理解し、情報通信技術を生かして主体的に地域に貢献する態度を育てる。

(イ) 実施時期及び期間

1月下旬～2月の8時間

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生「情報処理」163名全員に実施

(エ) 具体的教育プログラム

一宮町の観光資源や歴史的について PR したいことを調査し、一宮町を PR するための観光アプリ開発のアイデアを考案することで、IT の力で地域を活性化させようとする発想力と主体的に取り組む力の育成を図る。また、プレゼンテーションソフトを使った効果的な発表方法と資料作成の技術を学ぶ。

- ・IT を活用した地域活性化の意義や重要性について事前アンケートをとり意識調査を行う。
- ・一宮町の観光資源や歴史について調査し、観光アプリで PR するための情報を収集する。
- ・プレゼンテーションソフトを使った資料作成の方法と聞き手の立場に立った発表方法について学習する。
- ・クラス内で観光アプリのアイデアについて発表し、相互評価を行う。
- ・相互評価の得点を元にクラス内で学年発表に臨む2チームを選出する。

- ・学年全体で代表チームによるプレゼンテーションを行い、評価する。
- ・一宮町役場、町商工会議所職員、連携企業、保護者など、地域の方を招いて評価・講評をしていただく。

(オ) 学習評価の方法

- ・プレゼンテーション資料について、フォントや色使い、画像配置、コンテンツと文字のバランスなどの観点から完成度や説得力を評価する。
- ・プレゼンテーションの発表を聞いて、教員評価や他己評価、校内外の関係者評価を評価シートを用いて行う。
- ・観光アプリのアイデアについて、発想力・実用性・将来性・実現可能性などの観点について、過去の各プログラミングコンテストに応募された作品と比較・検討して情報科目担当教員が評価する。

※ハッカソン……ソフトウェアのエンジニアリングを指す“ハック”(hack)とマラソン(marathon)を組み合わせた米IT業界発祥の造語。複数のプロジェクトチームが、マラソンのように、数時間から数日間の与えられた時間を徹してアイデアの考案やプログラミングに没頭し、成果を競い合う開発イベントのこと。

オ. 観光ビジネスに必要な企画力・創造力の育成

【観光マーケティング分野の取組】

「観光マーケティング塾Ⅰ」～地域の企業人や大学関係者による講演～

(ア) 資質・能力の概要

今後の取組として新しい地域活性化ビジネスを考える上での必要な知識や技術を習得するとともに、実践的な観光マーケティング塾開講に向けての意識を高める。

(イ) 実施時期及び期間

7月・10月・12月に実施

(ウ) 教育課程上の位置付け

1年生 学年行事

(エ) 具体的教育プログラム

「ビジネス基礎」で学んだ知識をもとに、観光マーケティングに関する講演（実際に地域の観光関連ビジネスを展開している企業人や専門的知識をもっている大学関係者）を通じて地域観光ビジネスについての理解を深める。

- 1回目は、一宮町で実際に観光関連ビジネスを展開している企業人による講演、2回目は、大学関係者による講演、3回目は、観光教育に精通したコンサルタントによる講演を行う。
- ・学習の初めに、生徒に観光ビジネスについて、事前アンケート調査を行う。

- ・各講演によって学習をする。
- ・講演の振り返りとして、それぞれの感想や疑問点などをレポートとしてまとめる。

(オ) 学習評価の方法

- ・意識調査（アンケート調査）の前後でどのくらい意識が変わったかを測定する。
- ※ この教育プログラムは学年行事によるものであるため、これらの学習評価を教師の評価とし、必要に応じて改善する。

(4) 次年度実施する教育プログラムの開発

ア. 学校設定科目「地域観光Ⅰ」についての研究

- ・一宮町の地理・歴史をたどる学習（地域の歴史建造物の探索、一宮町観光課による講義、調べ学習を通してこれからの一宮町の観光スポット・名所にすべきランキング作成、グループごとの発表等）
- ・一宮町の観光のメインをグループごとで決定して行う地形調査（階級区分図の作成）の学習（一宮町の商店に来客数調査、調査の結果現在の観光名所の集客力をまとめ、今後どのように伸ばせるかをまとめる、グループごとの発表、各グループが考えた集客力アップの方法の改善点をクラスで考えさせ、町への意見書としてまとめる等）

イ. 観光ビジネスに必要な企画力・創造力の育成についての研究

- ・「マーケティング」を履修している生徒および学校設定科目「地域観光Ⅰ」を履修している生徒を対象に「観光マーケティング塾」を開講し、観光ビジネスの基礎的内容を理解させる。

ウ. 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成についての研究

- ・台湾人留学生（10月来日予定）と英語で交流し、新たな課題について話し合う。
- ・地域に提案した困りごとの解決策について、2年次に行うインターンシップを通して得られる情報を元に改善し、より具体的に外国人観光客の支援を行う。
- ・一宮町の国際的イベントに訪れる観光客を想定し、道案内や観光スポットの説明などをロールプレイングで行う。

エ. 観光アプリ開発の一助となる「地理」の指導についての研究

- ・一宮町の地形を把握させる。生徒の歩測による地形図を作成し、地図の作り方を体験させることによって、地理的データの収集能力、データの分析力を身につけさせる。

(5) 研究成果の普及

研究成果については、報告書形式にまとめ、関係各所に配布する。またWebサイトを活用して、研究成果の周知に努める。さらに「SPH中間発表会」や校内プレゼンテーションにおいて報告し、共有を図る。その際には、教育関係者や企業などの外部連携機関にとどまらず、広く地域にも公開して、研究成果の普及を図る。

2. 実施体制

(1) 研究担当者

5つの研究分野である『DMO』、『観光コンテンツ開発』、『国際交流』、『観光マーケティング塾』、『地域観光ビジネス』について、ユニットを構築する。各ユニットは、具体的な取組を企画し、各教科、学年、分掌が支援を行う。今年度は、商業科目「ビジネス基礎」「情報処理」を中心に、英語科・地歴公民科の授業及び学年行事の中で研究を行う。

氏名	職名	役割分担・担当教科等
渡部 清	校長	統括
井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当、予算管理・経理事務
末永 敬一	教諭	商業科主任・ユニット統括・「情報処理」担当
丸島 卓也	教諭	情報処理科主任・「情報処理」担当
鈴木 俊昭	教諭	教務主任・教育課程調整・数学科
田辺 和代	教諭	「コミュニケーション英語Ⅰ」担当
酒井 宣浩	教諭	「コミュニケーション英語Ⅰ」担当
濱野 果由	教諭	「現代社会」担当
橋本 秀哉	教諭	1学年主任・「情報処理」担当
高橋 正幸	教諭	「ビジネス基礎」担当
太田 義昭	教諭	「ビジネス基礎」担当
太田 真純	教諭	「ビジネス基礎」担当
田中 衡	教諭	「ビジネス基礎」担当
江澤 武人	教諭	「情報処理」担当
窪岡 慎一	教諭	「情報処理」担当
田中 善洋	教諭	「情報処理」担当
藤井 裕久	教諭	「情報処理」担当
橋本 翔平	教諭	「情報処理」担当
石井 浩子	実習助手	「情報処理」担当
高橋 憲仁	実習助手	「情報処理」担当
鈴木 朝枝	実習助手	「情報処理」担当

(2) 研究推進委員会

S P H運営指導委員会及び千葉県教育委員会の指導、助言を受け、企画立案や連携先機関との連絡調整を図りながら、ユニットごとの事業を展開する。

氏名	職名	役割・分野等
----	----	--------

渡部 清	校長	統括
井上 修一	教頭	連絡調整
北根 克義	事務長	財務担当、予算管理・経理事務
末永 敬一	教諭	企画立案統括、「観光マーケティング塾」企画立案担当
丸島 卓也	教諭	「観光コンテンツ開発」運営担当
鈴木 俊昭	教諭	教育課程、行事検討担当
田辺 和代	教諭	「国際交流」企画立案担当
濱野 果由	教諭	「地域観光ビジネス」企画立案担当
橋本 秀哉	教諭	「観光マーケティング塾」運営担当
田中 善洋	教諭	「DMO」企画立案担当
橋本 翔平	教諭	「観光コンテンツ開発」企画立案担当
高橋 正幸	教諭	「地域観光ビジネス」企画立案担当
窪岡 慎一	教諭	「DMO」運営担当
高橋 憲仁	実習助手	取組の記録及び広報担当
鈴木 朝枝	実習助手	取組の記録及び広報担当

(3) 運営指導委員会

本校のSPH事業の推進において、第三者の立場として、学校教育に関する有識者、企業等の専門職従事者、行政機関の職員等を委員として依頼し、指導助言をしていただく。また、来年度以降のプログラム策定についても助言をいただく。

氏 名	所属・職名	役割・専門分野等
山本 恭裕	千葉商科大学商経学部教授	研究全体の評価 指導・助言（マーケティング）
于 航 (YU HANG)	城西国際大学観光学部準教授	研究全体の評価 指導・助言（インバウンド観光）
瀬田 直也	千葉商工会議所 企画経営部 企画広報課長	研究全体の評価 指導・助言（地域経済振興）
宇佐美 信幸	合同会社 いちのみや観光局	研究全体の評価 指導・助言（DMOの運営）
鱒沢 雅子	千葉県商工労働部観光企画課 観光企画室 主幹	研究全体の評価 指導・助言（県観光行政）
川島 敏文	一宮町 副町長	研究全体の評価 指導・助言（地域連携）
山森 一輝	千葉県教育庁 学習指導課 指導主事	研究活動への指導助言（教育）

(4) 千葉県教育委員会における支援体制

千葉県教育庁教育振興部学習指導課は、学識経験者等から組織される運営協議会に学習指導課長とともに参加し、一宮商業高等学校と連携しながら実践研究を進めていく。具体的には学期に1回学校訪問を実施し、推進状況について実地調査を行い、積極的な意見交換をしながら到達点、改善点を協議していく。

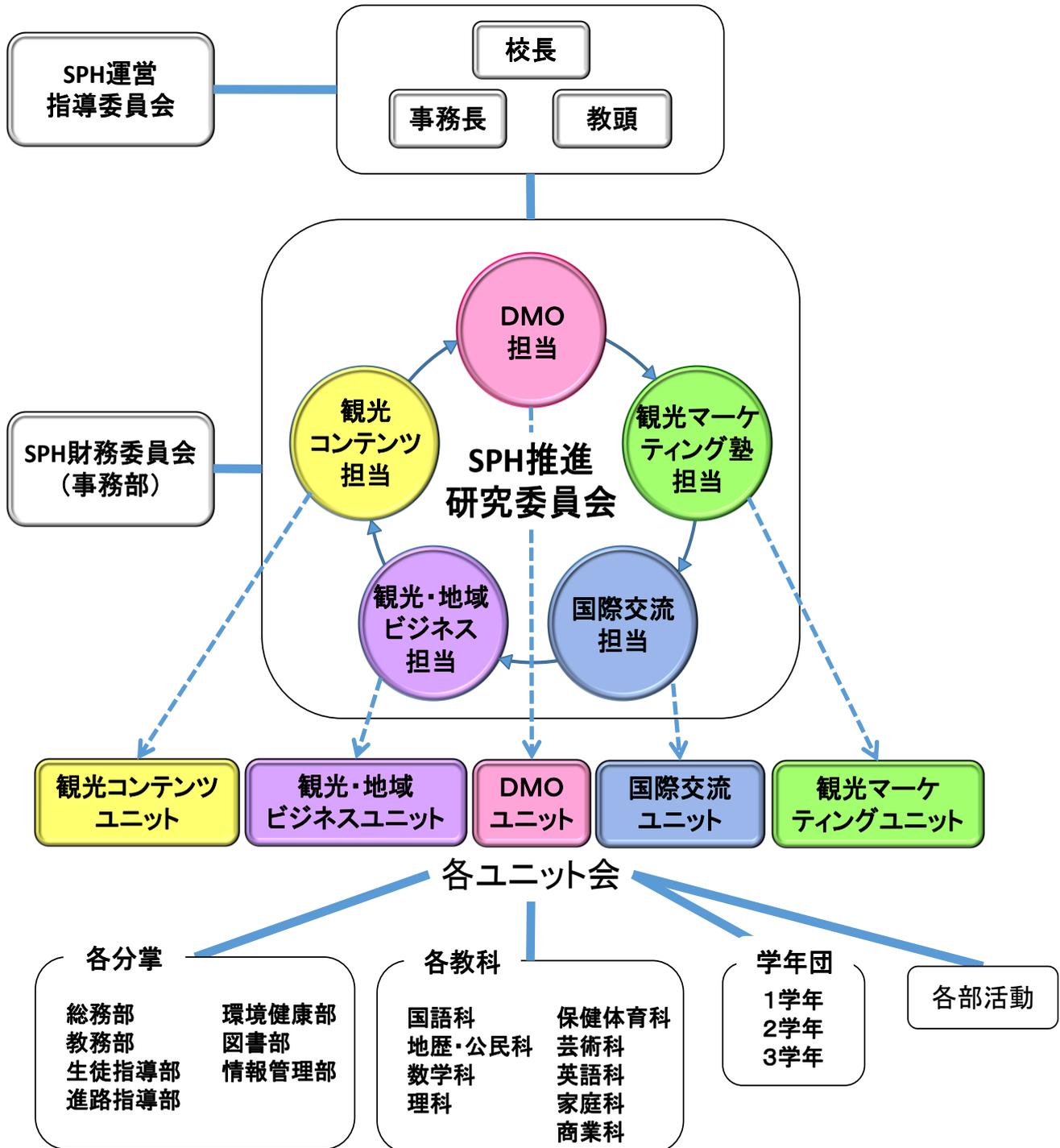
また、千葉県高等学校教育研究会商業部会における研修会で、研究の実践、進捗状況報告をしていく場を設定する。その中で、千葉県の商業教員への周知を図り、様々な意見を求める中で今後の実践研究への支援もしていく。

(5) 地域との連携

高校生版「DMO」の研究のためには、教員・生徒・地域が概念を共有し、活動を進めていくことが不可欠である。そのために、まずは一宮町で地域観光ビジネスを運営し、DMOの活動を始めている企業との連携を図る。また、一宮町役場、町観光協会、町商工会、地元NPO法人との協力・支援体制を築き、地域の特徴や課題についての情報提供や地域ビジネスの学びに関する指導・助言、地域のイベント等における企画・参加協力体制を築く。授業のみならず、ボランティアや部活動単位での連携も図っていく。

(6) 校内における体制図

千葉県立一宮商業高等学校 SPH校内体制図



3. 研究内容別実施時期

研究内容	実施時期											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (ビジネス基礎)				○		○	○	○	○	○		
地域の課題発見力・分析力・表現力の育成 (現代社会)				○	○	○						
英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする積極的な態度と能力の育成		○	○	○			○	○		○		
地域観光マーケティング・マネジメント力の育成				○				○	○			
IT の力で地域を活性化させる発想力と主体性の育成				○			○	○	○	○		
観光ビジネスに必要な企画力・想像力の育成				○			○		○			
次年度実施する教育プログラムの開発				○		○	○	○	○	○		

4. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
特になし				

5. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を伏すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

() 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。

(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

6. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 無

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

千葉県立一宮商業高等学校

千葉県長生郡一宮町一宮3287

TEL 0475-42-4520 FAX 0475-42-7418